



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係



※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら

小児外科

小児の便秘について

小児の便秘は日常によく遭遇する疾患ですが、程度は様々です。多くは機能的な問題でお薬による治療で対応可能ですが、外科的治療が必要な器質的な原因の場合があります。2013年に公表された小児慢性機能性便秘症ガイドラインでは、red flag として便秘をきたす基礎疾患を疑わせる兆候があれば専門施設での精査が勧められています(表1)。外科的治療が必要な病気としてはヒルシュスプルング病、肛門直腸奇形が挙げられます。

表1 便秘症をきたす基礎疾患示唆する徴候(red flags)

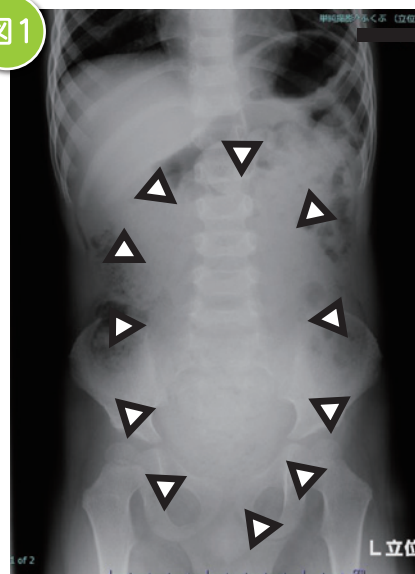
- ・胎便排泄遅延 (生後24時間以降の初回排便の既往)
- ・成長障害・体重減少
- ・繰り返す嘔吐
- ・血便
- ・下痢 (paradoxical diarrhea)
- ・腹部膨満
- ・腹部腫瘤
- ・肛門の形態・位置異常
- ・直腸肛門指診の異常
- ・脊髄疾患を示唆する神経所見と仙骨部皮膚所見



又機能的な原因でも長期にわたり放置してしまうと直腸が拡張してしまい(図1)「うんちをしたい」感覚がなくなります(便意の消失)。多くは軽度の便秘によってできた硬便が、排便時痛をひきおこし、排便行動が辛い、痛いものだと認識することにより排便を回避してしまい、便秘を悪化させてしまうことにあります。このような悪循環が完成すると治療には時間的にも精神的にもかなりの負担がかかります。まずは、排便が気持ちよいもの、と思えるようなすっきり感を覚えてもらうようにお薬を使用していくことが大切です。

(小児外科 部長 伊崎 智子)

図1



図の説明 図1 腹部レントゲン写真
△で囲まれた範囲に巨大な便塊があり、腸管が拡張しています。

専門・認定看護師
シリーズ19

コロナ禍における 認知症の人とのコミュニケーション

2021年 11月 第160号

認知症の人は、親しい人がいること、慣れた環境で暮らせること、日常生活での役割があることなどが大切と言われています。今回は、新型コロナウイルス感染予防のための3密を避けながら心の距離を近くする工夫を紹介します。

マスク着用時のコミュニケーション

マスクを着用して話をすると、表情や口の動きがわからず声がこもって、言葉も聞き取りづらくなります。いつもより、大きめの声で、ゆっくり話すことを心がけましょう。言葉だけではなく、ジェスチャーも有効です。安心できるような顔の表情で、大きくなずいたり、身ぶりや手ぶりを大きめに、動作を繰り返すと伝わりやすいです。

思い出を聞く

認知症の人は、今の出来事よりも昔のことを多く覚えています。昔の写真を見ながら、ご本人と話をしましょう。楽しい時間を過ごすきっかけになります。若い頃に流行っていた歌と一緒に聴くのもよいでしょう。今まで知らなかったその方の新たな一面を発見できるかもしれません。

手紙

ご家族や親しい方からの心のこもった手紙は、普段は言葉にすることがない「大切な人です。」という温かな気持ちが文字を通じて伝わります。しかも手元に置いて読み返すことができます。入院中は励みになります。

現在、当院では新型コロナウイルスの感染を防ぐために、対面による面会を制限させて頂いています。そこでオンラインの通話システムを使って、家族との面会ができるようにしています。ご家族の方の顔を見たり声を聞いたりすることで元気になりますので、入院病棟の看護師長にお問い合わせください。

詳しくはQRコードから病院のホームページ
(<https://www.oitapref-hosp.jp/news/archives/431>)をご覧ください。



(認知症看護認定看護師 佐藤 容子)



看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら

※掲載内容の詳細は各科外来・各病棟でお尋ねください。

(裏面をご覧ください)